

# 地域と連携した防災訓練等事例集 【平成 27 年度版】

平成 27 年 12 月

教育局総務室防災・広報グループ

## はじめに

東日本大震災から4年半が経過しますが、当時の地震や津波による甚大な被害の記憶は忘れられないものであります。また、ここ数年、日本各地で、大型台風や集中豪雨による洪水や土石流などにより多くの人命が失われております。

私たちは、そうした様々な自然災害に対し、日頃から準備し、児童生徒の大切な「いのち」を守らなければなりません。

また、学校は、災害時、避難所指定の有無に関わらず、近隣住民の方々が避難してくることが予想され、地域の方々の「いのち」を守る防災拠点としての役割も期待されています。

児童生徒の「いのち」と地域の方々の「いのち」を守るためには、学校の立地条件や特徴を踏まえて、日頃から学校と地域とが「顔の見える関係」を作り上げておくことが重要であり、そうした関係づくりには、学校と地域が、連携・協力して防災訓練等を実施することがたいへん有効です。

この冊子は、各学校が地域との「顔の見える関係」づくりを行う際のヒントとなるよう、特徴的で優れた取組みを進めている学校の協力をいただき、平成27年度版の事例集を作成しました。

この事例集を参考に、全ての県立学校において、地域との緊密な連携のもと、防災対策の推進が図られることを願っています。

平成27年12月

神奈川県教育委員会教育局

総務室長 長野 敏昭

## 目次

### ■地域と連携した防災訓練■

事例 1	鶴見高等学校	.....	P. 2
事例 2	神奈川工業高等学校	.....	P. 4
事例 3	横浜国際高等学校	.....	P. 6
事例 4	横浜南陵高等学校	.....	P. 8
事例 5	横浜明朋高等学校	.....	P. 10
事例 6	川和高等学校	.....	P. 12
事例 7	舞岡高等学校	.....	P. 13
事例 8	柏陽高等学校	.....	P. 14
事例 9	生田東高等学校	.....	P. 16
事例10	津久井浜高等学校	.....	P. 18
事例11	平塚江南高等学校	.....	P. 20
事例12	小田原総合ビジネス高等学校	.....	P. 22
事例13	茅ヶ崎高等学校	.....	P. 24
事例14	厚木商業高等学校	.....	P. 26

事例15	海老名高等学校	.....	P. 28
事例16	座間高等学校	.....	P. 29
事例17	愛川高等学校	.....	P. 30
事例18	平塚盲学校	.....	P. 32
事例19	みどり養護学校	.....	P. 34
事例20	武山養護学校	.....	P. 36

■ D I G (ディグ 災害図上訓練) ■

事例 1	旭高等学校	.....	P. 38
事例 2	氷取沢高等学校	.....	P. 40
事例 3	上矢部高等学校	.....	P. 42
事例 4	横須賀明光高等学校	.....	P. 44
事例 5	茅ヶ崎西浜高等学校	.....	P. 46
事例 6	逗葉高等学校	.....	P. 48
事例 7	相模原養護学校	.....	P. 50
事例 8	金沢養護学校	.....	P. 51

# ■地域と連携 した防災訓練■

## 事例 1 鶴見高等学校

名 称	自分たちで考える避難訓練
日時・場所	①平成27年10月10日（土）13時～16時 鶴見消防署 ②平成27年11月28日（土）9時～12時 鶴見消防署
学習のねらい	○自分たちであるべき避難訓練の内容などを検討し、実践する。
主 催	地域主催（横浜市消防局と連携した実践的防災教育） （鶴見消防署）
参加団体	横浜市鶴見消防署、家庭防災員
参加人数	自校生徒19名・教員2名 （防災委員9名（生徒8名、教員1名）含む）
事前準備	○3月25日 鶴見消防署と打合せ ○10月9日 事前打合せ① ○11月6日 事前打合せ②（防災委員）
実施内容	<p>○鶴見消防署が開催する「家庭防災員研修」に、本校の防災委員が参加し、防災意識の向上を図った。</p> <p>（1）救急救命訓練（10月10日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練人形を使用し、緊急時に心肺蘇生をおこなう手順などの確認を行った。</li> <li>・心肺蘇生に関するビデオを見て、心肺蘇生の必要性を確認した。</li> </ul> <p>（2）DIG訓練（11月28日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴見区の地図を使用し、災害時に緊急車両が通行できない路地の確認、食料などがあるスーパーマーケットの位置の確認などを行った。</li> <li>・津波に関するビデオを見て、津波発生時に浸水が想定される場所の確認を行った。</li> <li>・これらの結果をもとに5分程度の発表を行った。</li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>救急救命訓練</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>DIG訓練</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <p>○授業で学習した内容であったが、改めて心肺蘇生の必要性を感じた。</p> <p>○普段の生活では体験できないことを体験することが出来てよかった。</p> <p>また、災害発生時にどのように行動するのか、参考になった。</p>

工夫した点	<p>○事前に生徒へ心肺蘇生の説明を行い、必要性について確認を行った。</p> <p>○事前に生徒へD I G訓練についての説明を行い、訓練のやり方や意味についての確認を行った。</p>
成 果	<p>○普段はあまり交流のない地域の人との交流ができた。</p> <p>○家庭防災員の防災に対する意識が高く、生徒も防災意識が向上した。</p>
課 題	<p>○訓練人形のため、実際の状況で心肺蘇生を行うことができるか。</p> <p>○D I G訓練について、防災委員の生徒の多くが鶴見区外に居住しているため、地図上での地域の状況把握が必ずしも完全に出来たわけではなかった。</p>
今後の展開	<p>○校内で生徒の心肺蘇生の意識向上を図りたい。</p> <p>○校外での防災に関する活動に参加することで、生徒の防災意識の向上を図りたい。</p>

## 事例 2 神奈川工業高等学校

名 称	神奈川工業高校・神奈川総合高校・地域との合同防災訓練
日時・場所	平成27年7月6日（月）10時～15時 体育館・1年生ホームルーム（HR）教室
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○神奈川総合高校と合同での防災訓練を実施する。</li> <li>○地域（二谷小、平川町自治会）との防災訓練を行う。</li> <li>○災害発生時の初期対応行動として避難方法及び経路を確認し、安全にグラウンドに避難する。</li> <li>○災害が発生し交通機関等の不通を想定とした、模擬的に宿泊（喫食）訓練を行い、災害図上訓練（DIG）を通して危険箇所や避難場所等の確認を行う。</li> </ul>
主 催	学校主催（地震・津波・火災）
参加団体	二谷小学校、平川町町内会、神奈川消防署、消防団、神奈川区役所
参加人数	自校生徒920名・教職員85名、二谷小学校40名、平川町町内会30名、神奈川消防署10名、消防団3名、神奈川区役所3名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5月 職員会議にて素案を協議、総合高校担当者と実施時間の調整</li> <li>○6月 神奈川区役所、神奈川消防署、二谷小学校、平川町町内会と打合せ、県教育委員会より喫食訓練用食料搬入</li> <li>○7月 P T Aより喫食訓練時の水搬入、DIG訓練準備</li> </ul>
実施内容	<p>○同敷地内にある神奈川総合高校との合同防災訓練を実施後、津波警報を想定し、生徒により二谷小学校の児童や平川町町内会の住民を本校校舎上階へ避難誘導を行った。その後、非常食の喫食訓練、DIG訓練を行った。</p> <p>(1) 地域との避難訓練・誘導 大地震により津波警報が発令された事を想定し、二谷小学校2年生・平川町町内会(北部・南部)の住民の方を本校2年生が校舎3階へ避難誘導を行った。その場所にて神奈川区役所の方から神奈川区内のハザードマップを用い災害時の危険箇所等の説明が行われた。</p> <p>(2) 避難所設営訓練・防災教育・非常食の喫食訓練 避難訓練の後、1年生は体育館にて避難所設営訓練を行い、神奈川消防署・消防団からの防災に関する講話による防災教育を行った。その後、非常食の喫食訓練（乾パン）を行った。</p> <p>(3) DIG訓練 神奈川消防署の協力により1年生全員が各会場に分かれDIG訓練を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>喫食訓練</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>DIG訓練</p> </div> </div>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 (地域との避難訓練・誘導) ○地域の子供も考える必要があることに気付いた。 (避難所設営訓練・防災教育・非常食の喫食訓練) ○家の乾パンがいつまで食べられるか確認する。5個くらいでおなかを満たしてくれた。 ○実際のときどんな生活を送るのかなど知っておくことはとても大切なので避難所体験は大切だと思う。暗くいつもと違った食べ物でとても大変でした。 ○毎日の食事を残さず食べようと思った。 (D I G訓練) ○登校中や帰宅中にどうするか改めて考えることができた。 ○この近くのコンビニ等の位置が分かった。</p> <p>【教職員】 ○地域との訓練を通して学校としての行動が良く分かった。 ○災害発生時に地域の方が本校に避難してきた場合、生徒の安全が確保できるか心配である。</p> <p>【地域・小学校】 ○津波避難の場所として高層の建物は重要であり、訓練を行うことで校内の様子も分かった。 ○日中は高齢者が多く災害発生時には高校生力をあてにさせていただきたい。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○県教育委員会から乾パン、PTAから水を提供してもらった。 ○神奈川消防署・消防団による防災教育・D I G訓練への協力を依頼した。 ○神奈川区役所の方による小学校・町内会の方へ災害時の注意点などの説明を依頼した。</p>
<p>成 果</p>	<p>○例年の訓練として実施しており職員・生徒の防災意識が高まっている。 ○災害発生時に交通機関のマヒにより帰宅できなくなった場合、体育館にて復旧まで安全に待機しなければならない事を理解することができた。 ○停電による暗い中での不便な生活を一時的に体験することができた。 ○非常食だけの食事、水の大切さを実感できていた。 ○学校周辺(神奈川区)の地図をもとにD I G訓練を行い、学校周辺の危険箇所を理解することができた。 ○地域と連携して訓練を行うことで、災害時に生徒達の行動・地域での役割を確認することができた。 ○昼間に災害が起こった場合、地域には高齢者が多く在宅していることを知り、避難誘導の際に高校生の誘導が重要であることを理解することができた。</p>
<p>課 題</p>	<p>○消防署や区役所からの協力、総合高校・小学校・町内会との合同訓練での実施のため実施日時・時程の調整 ○喫食訓練での食料等の確保 ○D I G訓練でのファシリテーターの育成</p>
<p>今後の展開</p>	<p>○継続的に行うことによって、地域における本校の役割の確認をする。 ○体験等を通して、防災意識を高める。</p>

### 事例3 横浜国際高等学校

名 称	山王台西自治会防災訓練
日時・場所	平成27年10月3日（土）9時～12時 中庭
学習のねらい	○地域と協同で防災訓練を行う。
主 催	地域主催（地震・火災）
参加団体	山王台西自治会
参加人数	自校生徒30名・教職員5名、山王台西自治会100名
事前準備	○自治会との調整（電話） ○教職員への周知（月間予定連絡表など） ○訓練実施場所の清掃
実施内容	○本校としては、初めて地域と協同で防災訓練を行った。 （1）消火訓練 道路の消火栓から放水を行った。 （2）煙体験訓練 煙の中を身を低くして避難した。 （3）AED訓練 AEDの実地訓練を行った。 （4）炊き出し訓練 アルファ米でおにぎりを作った。
参加者の 主な声	【地域】 ○高校生が参加したことで雰囲気が明るくなり、地域の方々から喜ばれた。 ○高校生がAEDの使い方に慣れていることに感心されていた。
工夫した点	○高校生をそれぞれの訓練に参加させ、地域の方々と交流させた。
成 果	○実際に災害が起こったときに高校が地域に対して何ができるかを考えることができた。 ○普段交流のない近隣と方々と知り合うことができた。
課 題	○特になし。
今後の展開	○自治会との防災訓練は、今後も継続していきたい。



## 事例 4 横浜南陵高等学校

名 称	日野小学校地域拠点防災訓練
日時・場所	平成27年9月26日（土）9時～12時 横浜市立日野小学校
学習のねらい	○地域貢献及び地域との交流を通じた福祉マインドの育成
主 催	地域主催（地震）
参加団体	日野住宅地自治会、宮谷町内会、日野南町内会、日野町内会、日野第三町内会、原南自治会、港南消防署、消防団
参加人数	自校生徒19名・教職員4名、町内会・自治会150名
事前準備	○地域防災運営委員との事前打合せにより、避難所において使用される指示や伝達事項を予め確認し、手話の練習に取り組んだ。
実施内容	<p>○地震発生時の避難訓練を行った。</p> <p>○避難所において、本校生徒（社会福祉部の部員など）が手話を活用して地域防災運営委員の説明や指示、連絡事項を同時通訳し、聴覚障がい者が避難所に存在することを想定した訓練に協力した。</p> <p>（1）避難訓練 各町内会・自治会は、いっとき避難場所から地域防災拠点である日野小学校への避難訓練を実施した。</p> <p>（2）応急・救出救護訓練 消防署員によるAED取扱・心肺蘇生の訓練を実施した。</p> <p>（3）避難所実技訓練 公衆電話やデジタル無線の取扱、避難所での車椅子取扱等の訓練を実施した。</p> <p>（4）下水道直結式トイレ組立・防災資機材の取扱訓練 港南消防団によるトイレ組立と取扱、救助資機材取扱の訓練を実施した。</p>
参加者の主な声	<p>【生徒】 ○地域の方々とのふれあいにより他者への気配りや思いやりのあり方、地域防災の実技実習など有意義な体験ができた。</p> <p>【地域】 ○日ごろ接する機会の少ない高校生とフレンドリーに接することで、横浜南陵高校が身近な存在として実感でき、災害時に高校生と協力し合える心強さを感じた。</p>



工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練の際に、本校生徒は本校正門前から車椅子3台を使用し、地域防災拠点までの経路上で車椅子の障がいとなるものを確認しながらの移動を体験実習した。</li> <li>○避難所において使用される指示や伝達事項、主催者の挨拶内容などを事前入手し予め手話通訳の練習ができた。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉マインドの育成のために地域交流が活用できたこと。</li> <li>○手話を活用しての参加により、地域から好評を得て、地域の参加者が拡大していくこと。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難所までの避難経路のうち、災害時の車椅子の移動に支障となるものへの改善策の取組み</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難所に障がいのある方々が参集したことを想定した訓練に高校生が手話を活用して参加したことにより、次回の避難訓練に地域から新たな参加希望が寄せられているとのことである。</li> <li>○本校からも多数の生徒が訓練に参加し、地域との交流を図りたい。</li> </ul>

## 事例5 横浜明朋高等学校（定時）

名 称	合同防災訓練
日時・場所	平成27年8月31日（月）10時～11時 第1グラウンド
学習のねらい	○地域と高める防災意識
主 催	学校主催（地震・火災）
参加団体	白峰保育園、港南消防団第4分団、港南消防署、近隣5自治・町内会
参加人数	自校生徒512名・教職員48名、5自治会・町内会10名、 港南消防団21名、白峰保育園40名
事前準備	○半年前から地域に広報し、参加を促した。
実施内容	<p>○かながわシェイクアウト訓練を実施後、向かいの白峰保育園の園児を生徒がグラウンドに誘導した。</p> <p>○地元の港南消防団による消火放水デモンストレーションを見学・参加し、参加者の防災意識向上を図った。</p> <p>（1）近隣保育園と連携した避難誘導訓練 日頃から、連携している保育園との合同訓練を実施した。</p> <p>（2）地元消防団と連携した防災訓練 日頃から、本校内で実施している放水訓練の様子を披露。生徒の地元での参加を促した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>園児の避難誘導訓練</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地元消防団との訓練</p> </div> </div>
参加者の主な声	【地域】 ○園児さんが最後までしっかり参加していて立派だった。
工夫した点	○消防団の放水訓練に生徒を参加させた。
成 果	○年少者を守る意識と、地域を守る消防団への理解が深まった。 ○本校生徒への地域の理解が深まるとともに、その後の地域のみ公開の文化祭で消防署・消防団から起震車の参加を得ることができ、地域防災の取組みのきっかけとなることができた。

課 題	○地域の皆様が参加しやすい日時の設定
今後の展開	○地域の「いっとき避難場所」としての地位を確立し、地域防災への取組みにより、地域協働の原動力としていく。

## 事例6 川和高等学校

名 称	横浜市消防局と連携した実践的防災教育
日時・場所	平成27年11月6日（金） 12時50分～13時20分 選択22教室
学習のねらい	○災害発生時のフローチャートを作成し、自分達の動きを確認
主 催	学校主催（横浜市消防局と連携した実践的防災教育）
参加団体	横浜市都筑消防署、消防局都筑消防署川和消防出張所
参加人数	自校生徒（防災委員16名（各クラスから2名））
事前準備	○3月18日 都筑消防署と打合せ ○10月23日 災害発生時のフローチャートを作成 ○11月6日 防災委員会の開催（フローチャートの進捗状況を発表）
実施内容	<p>○フローチャートの作成から、近所の地域防災拠点である川和東小学校との連携が必要と考えた生徒が、川和東小学校を訪問し、敷地内にある備蓄倉庫の点検などを行った。</p> <p>（1）地域防災拠点備蓄倉庫点検 【川和東小学校訪問】地域防災拠点についての説明を受け質疑応答及び備蓄倉庫の見学、点検</p> <p>（2）広域避難場所備蓄倉庫点検 【本校】備蓄倉庫の点検及び地域防災拠点備蓄倉庫との比較検討</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>川和東小学校の備蓄倉庫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>川和高校の備蓄倉庫</p> </div> </div>
参加者の主な声	【生徒】 ○備蓄倉庫の中にあるものやその数、使い方を知ることができた。
工夫した点	○地域防災拠点と広域避難場所の役割が区別できるように他校にも協力を依頼した。
成 果	○防災活動の意義について生徒の理解が深まったと同時に今後の課題を明確化することができた。
課 題	○防災委員のみならず他の生徒にも防災活動の意義や備蓄倉庫の役割等の理解を広めていくこと。
今後の展開	○年度末に集会を開き、今年度の活動をポスターにまとめて掲示（ポスターセッション形式）して発表する。

## 事例7 舞岡高等学校

名 称	地域防災を考える（舞岡台自治会主催防災訓練に参加して）
日時・場所	平成27年9月27日（日）9時～13時 南舞岡小学校
学習のねらい	○地域の防災を高校生として何ができるかを考える。
主 催	地域主催（地震） （舞岡台自治会・防災防犯対策を考える会）
参加団体	舞岡台自治会、防災防犯対策を考える会
参加人数	自校生徒20名・教職員1名、舞岡台町内会100名
事前準備	○リヤカーの組立、簡易担架の作成、運搬方法等の事前訓練講習会に参加
実施内容	○自治会の防災訓練に参加した。 （1）高齢介護者移送訓練 リヤカー、車いすを使って移送を実施、体験  （2）坂道移送訓練 坂道の上り下り、段差移動訓練を実施、体験
参加者の主な声	【生徒】 ○学校周辺に高齢者の方がたくさんいることがわかり、そのお手伝いができることが分かった。
工夫した点	○事前訓練に参加して機材の取り扱いの講習を受け、移送がスムーズに行えるよう準備した。
成 果	○地域の方々が高校生に期待していることが、生徒に伝わった。 ○地域との連携が大切であることを生徒に感じてもらった。
課 題	○多数の生徒に参加してもらいたいが、なかなか日程調整がつかない。
今後の展開	○学校の避難訓練や防災活動を地域の方にも見てもらい、意見を聴く機会をもうけたい。

## 事例 8 柏陽高等学校

名 称	防災を考える
日時・場所	<p>①平成27年7月16日(木) 栄消防署によるD I G研修① 14時～15時30分 選択教室</p> <p>②平成27年8月25日(火) 第2回防災訓練 14時～15時20分 HR教室、体育館</p> <p>③平成27年9月8日(火) 栄消防署によるD I G研修② 14時～15時30分 選択教室</p> <p>④平成27年9月26日(土)・27日(日) 文化祭での「防災発表」 9時～15時 2階ホール</p>
学習のねらい	○生徒の防災意識を高め、防災についての知識を深めて、災害時にどのような行動をとり、自らを守って地域にも貢献できるかを考える。
主 催	学校主催(横浜市消防局と連携した実践的防災教育)
参加団体	横浜市栄消防署
参加人数	自校生徒(環境美化委員33名(1年17名、2年16名))
事前準備	<p>○3月18日 栄消防署①と打合せ</p> <p>○6月16日 栄消防署②と打合せ(スケジュール・活動内容など)</p> <p>○6月29日 環境美化委員会の開催(文化祭での「防災発表」グループ分けなど)</p> <p>○7月6日 「防災発表」のテーマ決め</p> <p>○夏休み グループ毎に栄消防署と研究準備</p>
実施内容	<p>○栄消防署員の方々にアドバイスを受けながら、様々な訓練や研究を行い、文化祭で「防災発表」を行った。</p> <p>(1) 栄消防署によるD I G研修 1回目は、栄消防署員から学校周辺の危険個所についてパワーポイントで説明を受けながら、防災マップ作製のポイントなどのお話を伺った。 2回目は、グループごとに夏休み中に集めたデータを基に、地域の防災マップの作成の指導を消防署員の方々に行ってもらい、防災マップを作成した。</p> <p>(2) 第2回防災訓練 ホームルームで防災クイズを実施し、防災についての知識の確認をした後、避難した。避難後、全体に向けて東日本大震災を含め、災害についての講話を行った。</p> <p>(3) 文化祭での「防災発表」 2回目のD I G研修で作成した地域の防災マップの展示を行った。</p>
	 

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 ○普段は何気なく通っているところにも、数多く危険な箇所があることがわかった。 ○今回の研修を通して学んだものを、自分の住んでいる地域にも役立てられるようにしたい。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○実際にD I G研修を行う前にグループ分けを行い、それぞれに防災関連で関心のあるテーマを考えさせ、防災に関する意識付けを行った。</p>
<p>成 果</p>	<p>○学校周辺をいくつかに分けて、グループごとに現地へ行き危険個所を調べ、それを元に防災マップを作ることを行ったが、普段は気づかないままになっているところにも目が向けられるようになった。 ○どの生徒もD I Gは初めてだったようだが、起こりうる災害に目を向けるよいきっかけになった。</p>
<p>課 題</p>	<p>○グループごとに地域を割り当て、夏休み中にデータ収集を行うように指示してあったが、グループによって取り組み具合に差が見られた。 ○D I Gにはある程度まとまった時間が必要だが、授業中であると時間の確保が難しい。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>○今回は「地域の危険箇所のマップを作る」ことに絞って活動を行ったが、ここで得られた知識を基に、更に自らの地域にも発展させて知識を深められるようにできると良い。</p>

## 事例 9 生田東高等学校

名 称	第 5 回地域合同防災訓練
日時・場所	平成27年11月 8 日（日） 9 時30分～12時10分 川崎市立柘形中学校
学習のねらい	○地域の避難者対応、児童生徒の宿泊対応に備える。 ○川崎市北部で起こり得る災害への認識を新たにし、避難所運営の在り方を考える機会にする。
主 催	地域主催（地震） （柘形中学校避難所運営会議）
参加団体	柘形中学校区の 6 自治会、 川崎市、柘形中学校、生田東高等学校、高津養護学校生田東分教室
参加人数	計160名程度 自校教職員・保護者・分教室生徒等約20名、自治会約120名・諸官庁約10名・柘形中学校職員約10名（その他、県議・市議などが参加）
事前準備	○総務Gによる企画書提出（6月） ○「避難所運営会議」で実施案作成（5月～11月（18時30分～20時）全7回実施） ○職員会議で報告（9月） ○地区配備の消防ホースを本校で点検（10月） ○パワーポイント資料作成（11月）
実施内容	○「柘形中学校避難所運営会議」運営の総合訓練 （1）講話 「避難勧告と避難指示」川崎市危機管理室 （2）訓練 ・柘形中学校避難所運営のルール説明 ・HUGを用いた避難所運営演習 ・アルファ米炊き出し ・仮設トイレ設置開設作業 ・中学校の備蓄倉庫見学 
参加者の主な声	【保護者】 ○講話は非常に役立った。川崎市でこんなに土砂崩れが起きる可能性があるとは思わなかった。 【教員】 ○アルファ米は混ぜないと固くなってしまふ。前回作った時の方がおいしかった。 【地域】 ○避難所運営について具体的な場面を想像して考えられた。規約の見直しも含めて次につながる内容になった。 ○仮設トイレの組み立てができるようになり意義深かった。

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方が主体で活動する中、補助的な部分で地域貢献を心がけた。</li> <li>○地域貢献の姿勢を打ち出すこととし、年間を通して使用する避難所運営規約、避難所運営に関わるパワーポイント資料は本校職員が編集を行った。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域との関わりが密になり、生徒を見守る体制作りに役立っている。</li> <li>○教職員と保護者は講話に参加し、川崎市の災害リスクを学んだ。</li> <li>○当日の炊き出しや運営演習の補助、広報といった運営全般を担った。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校教職員の事務能力が地域から期待されている中、負担も大きい。</li> <li>○防災訓練の時期について、地域の計画に合わせるため、生徒の参加が困難な場合がある。</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○枳形中学校、地域と防災用品の情報を交換し、災害時に状況に応じ融通し合える関係づくりを急ぐ。</li> <li>○来年度に向け、より本校生徒が参加し、さらに防災教育が進むよう、取組内容を考案する。</li> <li>○今後も継続的に地域と連携し、信頼関係を醸成する。</li> </ul>

## 事例 10 津久井浜高等学校

名 称	津久井地区自主防災組織による防災訓練
日時・場所	平成27年10月25日（日） 9時～12時 横須賀市立津久井小グラウンド
学習のねらい	○地域主催の防災訓練に参加し、地域における本校の果たせる役割の可能性を探る。
主 催	地域主催（地震） （津久井地区自主防災組織主催）
参加団体	津久井連合町内会、横須賀南消防署
参加人数	自校生徒20名・教職員 2名、津久井連合町内会400名、横須賀南消防署職員10名
事前準備	○連合町内会防災委員会との会議・調整（6・9月） ○本校生徒への訓練参加に際する説明会（10月）
実施内容	<p>○13町内会内の各班が定められたそれぞれの一時避難場所に集合したのち地域の避難所である津久井小学校へ移動</p> <p>○13町内会を3グループに分け、以下の訓練を実施</p> <p>（1）AED訓練 訓練用AEDを用いた消防署員によるデモンストレーション、地域住民による実習</p> <p>（2）煙体験訓練 煙発生テントを用いた消防署による避難指導</p> <p>（3）消火器訓練 訓練用消火器を用いた消火器使用訓練</p> <p>（4）防災倉庫の見学 避難所に指定されている津久井小学校に設置されている防災倉庫の見学・説明</p>
参加者の主な声	<p>【生徒】 ○地域の方々の参加している様子が非常に真剣であった。自分たちができることを考えさせられた。</p> <p>【教職員】 ○地域主催の防災訓練に参加し、災害時における本校の役割を探る一助となった。地域の力を再認識させられた。</p>



工夫した点	○本校は広域避難場所に指定されているが、避難所との違いを参加者全員にはっきり説明し、いざという時の避難方法の理解を図った。
成 果	○地域の方々と顔の見える関係が深まることにつながった。 ○“地域の学校”という住民への理解が浸透した。
課 題	○地域の町内会主催であり、横須賀市（行政）との連携には至っていない。いずれは、県市の指示系統が整理された形態での防災体制が確立されることが望まれる。 ○今後、さらに自治体等との連携を進め、地域防災に対する本校の体制を検討していきたい。
今後の展開	○本校生徒会が参加できるような準備、指導を進め、学校全体での地域連携が図れるような体制を考えていきたい。

## 事例 1 1 平塚江南高等学校

名 称	地域貢献活動兼第 2 回防災教育
日時・場所	平成27年10月28日（水）14時35分～16時 体育館・HR教室ほか
学習のねらい	○地域の方に本校の状況を理解していただくとともに、生徒が地震等の際取るべき適切な行動を確認する。
主 催	学校主催（地震・津波）
参加団体	富士見町自治会、諏訪町自治会、平塚市
参加人数	自校生徒960名・教職員77名、富士見町自治会 2 名、 諏訪町自治会 2 名、平塚市職員 5 名
事前準備	○回覧板やホームページ等での地域住民への告知 ○災害時の避難経路や避難場所の確認 ○試食する非常食等を用意
実施内容	○校内の防災倉庫等を見学し、非常食の調理、試食等を行った。 （1）避難訓練 大地震を想定して、平塚市の避難所となる体育館への避難及び 津波対策として校舎3階情報室への避難  （2）非常食等の準備訓練 非常食を調理し、試食  （3）防災倉庫見学 備蓄状況を確認 *これらの訓練にあたり、地域住民に生徒が同行
参加者の 主な声	【地域】 ○約1,000名の生徒が一度に避難することの大変さがわかった。 ○学校の備蓄の状況が理解できた。
工夫した点	○非常食などの試食を通じて、防災への取組みを身近に感じていただく よう工夫した。
成 果	○本校の状況について、地域住民の方に理解していただくことができた。
課 題	○地域の方が参加しやすい時期、またより多くの方に参加いただけるプログラム、広報等について工夫していく必要がある。
今後の展開	○上記の課題を克服できるよう、地域の声を聞きながら次年度に向けた準備を進めたい。



## 事例 1 2 小田原総合ビジネス高等学校

名 称	津波想定合同訓練
日時・場所	平成27年11月6日（金）14時5分～15時10分 南館4階、本館・北館3階、体育館
学習のねらい	○津波浸水予測が見直され、より厳しい状況がある中で、本校生徒・職員の避難態勢と隣接中学校、支援センター、自治会が本校校舎内に避難する場合の態勢について訓練する。 ○昨年実施した訓練の反省をもとに、避難経路、人員配置、教室・廊下の詰め込み状況、連絡体制を改善する。 ○例年同様、白鷗中学校・小田原支援センター及び網一色自治会にも参加を呼び掛け、地域貢献とする。
主 催	学校主催（地震・津波）
参加団体	白鷗中学校、網一色自治会、小田原支援センター
参加人数	自校生徒665名・教職員56名、白鷗中学校350名、網一色自治会8名、小田原支援センター73名
事前準備	○白鷗中学校との連絡調整（9月～11月） ○網一色自治会、小田原支援センターとの調整（9月） ○職員会議（10月）
実施内容	（1）津波想定合同訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>■本校 <ul style="list-style-type: none"> <li>○14時8分地震発生の放送で、身体安全確保のため机の下にもぐった。14時9分避難開始の放送で津波対応訓練を開始し、授業場所から授業担当者が生徒を南館4階教室及び本館4階教室に避難させ人員点呼を行った。</li> </ul> </li> <li>■白鷗中学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>○14時18分津波対応訓練開始。全校生徒が本校南館4階廊下（1・2年）及び本館4階廊下（3年）に避難した。</li> </ul> </li> <li>■小田原支援センター <ul style="list-style-type: none"> <li>○14時5分津波対応訓練開始。参加者全員が本校の北館3階教室に避難した。</li> </ul> </li> <li>■網一色自治会 <ul style="list-style-type: none"> <li>○14時5分津波対応訓練開始。事前に回覧で周知し、訓練参加者が本校北館3階教室に避難した。</li> </ul> </li> </ul> （2）防災アドバイザー講話 <ul style="list-style-type: none"> <li>○地震についてそのメカニズムを含めての講話と簡易トイレ等防災用品の使用実演を行った。</li> </ul>
参加者の主な声	【生徒】 ○参加者がもう少し緊張感を持つべきと感じた。
工夫した点	○移動教室の授業等考慮し、その時点での場所から効率的な避難経路を計画した。

<p>成 果</p>	<p>○昨年とほぼ同様の時間で避難を完了することができたことは、一定の成果があったとみてよいと考える。  ○防災アドバイザーの講話は、生徒の興味を惹いた様子であり意義があったと考える。  ○防災用品の使用説明は、3名の生徒を使ったことと見慣れない用品を間近に見られる機会だったということで、多くの生徒の関心を誘った。</p>
<p>課 題</p>	<p>○津波浸水予測がより高くより早く見直されたことから、避難時間を短縮できないか検討する必要がある。  ○防災アドバイザーの講話は、あまりない機会として、自治会・支援センターの参加者にも聞いてもらう体制が作れると良いと考える。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>○合同訓練を重ねて、周辺地域との連携意識は深まっている。  ○次年度に向けて、今年の実践を踏まえてさらに強く連携した訓練を計画することだけでなく、訓練以外の場でも地域との連携を深めていけるようにしたい。</p>

### 事例 1 3 茅ヶ崎高等学校

名 称	地域合同防災訓練
日時・場所	平成27年8月28日（金）9時～10時 校舎・体育館・グラウンド
学習のねらい	○災害発生時における生徒の安全行動確認及び自治会と協力した地域住民の安全確保
主 催	学校と地域の共催（地震・津波） （茅ヶ崎高校・本町第一自治会）
参加団体	本町第一自治会
参加人数	自校生徒1,070名・教職員62名、本町第一自治会28名
事前準備	○防災倉庫及びコンテナ等の鍵の確認、備蓄品の確認、避難導線の確認 ○自治会への広報（回覧板での案内）
実施内容	○大地震発生及び大津波警報発令を想定した校舎内避難訓練を行った。 （1）大地震を想定した避難訓練 震度5強を想定した避難訓練。初期行動の確認  （2）大津波警報を想定した避難訓練 大津波警報発令に伴う、避難行動の確認及び避難導線の確認  （3）地域の方の避難行動の確認 休日深夜等に避難してきたことを想定して、鍵管理、備蓄品の確認、避難場所の導線を確認
参加者の主な声	【地域】 ○定期的に訓練を行っていただけるとは助かる。 ○避難場所や非常用倉庫を具体的に確認できた。 ○備蓄食料の確認や発電機、投光器の使い方を知っておきたい。
工夫した点	○理解を深めるため、地域の方に実際に行動してもらうようにした。
成 果	○生徒の避難訓練と同時に行ったことで、地域の方にも効果的であった。 ○実際に行動してもらうことで非常時のスムーズな行動を期待できる。
課 題	○学校、地域に加え、行政との連携を深めたい。避難所協定の点からも、防災備品等について、定期的な協議が必要である。 ○予告なしの避難訓練を行うなど、生徒の意識を高める工夫を図りたい。
今後の展開	○市の担当者を加えて、簡易トイレの組立や発電機等の使用方法の確認等を取り入れた訓練を行いたい。 ○生徒には、非常食の試食やアルミシート体験など、体験型の訓練を検討したい。



## 事例 1 4 厚木商業高等学校

名 称	厚木市王子 1・2・3 丁目避難所開設訓練
日時・場所	平成27年 8 月23日（日） 8 時30分～12時30分 体育館
学習のねらい	○被災時に地域と連携できる生徒リーダーを常に確保しておく伝統の形成 ○将来居住する地区で防災のリーダーとして活躍しうる資質の育成
主 催	学校と地域の共催（地震） （厚木市王子 1・2・3 丁目自治会で構成される厚木東高校・厚木商業高校避難所運営委員会）
参加団体	厚木市王子 1 丁目・2 丁目・3 丁目自治会
参加人数	本校生徒15名・教職員 4 名（ほかに厚木東高校生徒10名、教職員 3 名） 王子 1～3 丁目住民約200名、厚木市防災担当職員 1 名
事前準備	○6 月14日に地区の公民館で骨子確認 ○7 月12日、8 月9日に、本校において生徒代表（生徒会・ボランティア部）と自治会役員（班長約50名）で全体会並びに班別打ち合わせ
実施内容	○避難所の開設訓練及び諸機材の取扱訓練 （1）防災倉庫の確認 点検、発電機・簡易トイレ・浄水器等の演習 （2）避難所開設訓練 避難所設営、避難者把握・誘導、起震車体験 （3）資機材取扱訓練 簡易トイレ・投光器・救急用ジャッキ・発電機 （4）救護訓練 A E D 研修（参加高校生全員） （5）非常食・飲料水運搬配給訓練 バケツリレーによる運搬・配給
	 
参加者の主な声	【生徒】 ○地域の人々から大歓迎されて大変やりがいがある。 ○地域の役に立ててうれしい。 ○様々なノウハウを教わり勉強になった。
工夫した点	○自治会の好意と要望により企画段階から生徒が参画し、住民の班長達と共に企画・立案・運営するという形で実施した。

成 果	<p>○生徒に防災意識の高まりやノウハウの獲得だけでなく地域の人々と協働し地域の役に立つことを幸福と感じる高揚心が見られた。</p> <p>○住民側に本校を我々の町の学校として愛着を持って応援する気持ちが高まった。(9月15日反省会にて)</p>
課 題	<p>○避難住民と学校待機生徒の数を想定し、教室や体育館を含めた学校施設の割り振りを現実的に検討すること。</p> <p>○学校と地域が、組織的、日程的に協働して合同で行う大規模訓練を、毎年は無理でも在籍中に1回は体験できることが理想と考える。</p>
今後の展開	<p>○この取組みを伝統とし、学校ぐるみで参画できるよう組織や日程を地域と調整し、被災時に地域と学校で円滑に避難所運営ができる体制を樹立したい。</p>

## 事例 15 海老名高等学校

名 称	地域交流防災教室
日時・場所	平成27年7月17日（金）16時30分～19時45分 会議室
学習のねらい	○生徒の防災に関する意識向上を図る。
主 催	学校主催（地震）
参加団体	えびな団地自治会、海老名市
参加人数	自校生徒30名・教職員10名・保護者4名、えびな団地自治会10名、海老名市（危機管理課）3名
事前準備	○海老名市危機管理課との打ち合わせ（5月）
実施内容	<p>○本校としては、地域の方を交えての初めての防災学習会であった。</p> <p>○海老名市、自治会の方々と一緒に避難施設である本校校舎を見学し、防災備品の確認等を行った後、消防署員から災害時の緊急対応方法を学び高校と地域との相互理解を図った。</p> <p>（1）本校校舎の見学 （2）防災備品の確認 （3）災害時の救急搬送方法等</p> 
参加者の主な声	<p>【生徒】 ○海老名市の危機管理課の方の東北大震災での経験した講話が心に響いた。</p> <p>【教員】 ○生徒と地域が初めて一緒に顔を合わせて勉強会が出来たのは、今後につながる。</p>
工夫した点	<p>○海老名市から提供してもらったアルファ米（非常食料）の試食</p> <p>○救急搬送の仕方を消防の方に直接教えてもらうよう、調整した。</p>
成 果	○地域の方や海老名市の職員と共に経験していく中で、自然と生徒の防災意識が高まった。
課 題	○今回は一部の生徒の経験だったが、来年度以降は少しずつ人数を増やしていきたい。
今後の展開	○学年全体での地域交流を図りたい。

## 事例 1 6 座間高等学校

名 称	平成27年度第 2 回避難訓練
日時・場所	平成27年10月23日（金）11時30分～15時30分 応接室・グラウンド
学習のねらい	○生徒に地域の中にあるという意識を喚起させ、放課後等部活動中の授業時以外の対応訓練を行う。
主 催	学校主催（地震）
参加団体	桜田住宅自治会
参加人数	自校生徒300名・教職員35名、桜田住宅自治会 5 名
事前準備	○教育連携グループを通して、自治会への連絡 ○座間市役所からアルファ米提供交渉と受領
実施内容	○近隣住民の代表者（自治会役員）と非常時の対応について協議の場をもち、その後、部活動の避難訓練を見学していただいた。 ○避難訓練では、新たに非常食の試食も合わせ行った。 （1）非常食の試食訓練 参加希望部生徒 （2）近隣住民代表との協議 （3）避難訓練（自治会役員による見学） 部活動生徒中心
参加者の主な声	【教員】 ○見学者がいることで生徒の行動に、張り合いがうかがえた。 【地域】 ○学校の備蓄状況や対応について理解が深まった。
工夫した点	○アルファ米の試食で、火は緊急時を想定して、ワンダーフォーゲル部のガスコンロを使用
成 果	○地域と防災意識の共有ができた。 ○自治会の見学により避難訓練は、明確な意識を持って行動できた。
課 題	○アルファ米の試食では、火をおこすのに時間がかかりすぎてしまった。
今後の展開	○近隣自治会との協議を継続させ、避難訓練もできれば共同で行えるものを検討する。

## 事例 17 愛川高等学校

名 称	愛川町自主防災訓練
日時・場所	平成27年8月30日（土）8時～12時 体育館ほか
学習のねらい	○防災に関する基本的な理解を深め、地域との連携を密にしながら、社会貢献できる人材を育成する。
主 催	地域主催（地震） （愛川町）
参加団体	愛川高校周辺自治会、愛川町役場
参加人数	自校生徒6名・教職員4名、周辺自治会200名、愛川町20名
事前準備	○愛川町などとの会合（7月22日、8月22日の2回）
実施内容	<p>○近隣住民が学校に避難することを想定し、実際に避難所の開設を行った。</p> <p>（1）受付場所の設置と受け入れ準備 （2）終日受付場所にて受付及び人数集計 （3）避難者の集計作業</p> 
参加者の主な声	<p>【生徒・教員】</p> <p>○地域の住民が協力的であった。 ○事前の準備があって、スムーズにできたと思う。 ○学校が地域の方々のためになることは嬉しく思う。 ○もっと、いろいろな体験をしてみたかった。 ○避難訓練の重要性が改めてわかった。</p>
工夫した点	○避難に必要な資機材を備蓄倉庫に置き、住民がスムーズに必要な物品を運搬できるようにした。
成 果	<p>○広域防災に関する意識が高まった。 ○実際に、どのように行動するか生徒たちの理解が深まった。 ○学校・町・自治会がそれぞれの役割を果たしている。 ○地域と接することでコミュニケーション能力の育成に繋げることができた。</p>
課 題	<p>○生徒の参加をどのように増やすか。 ○自らの地域は自らが守るという精神をどのように育むか。</p>
今後の展開	<p>○災害時における、生徒と避難住民の居住エリアの区分けを再検討 ○総合的な学習の時間を利用した地域防災マップの策定</p>



## 事例 18 平塚盲学校

名 称	平成27年度第3回避難訓練（大規模震災避難訓練）
日時・場所	平成27年11月10日（火）10時50分～13時 （一時避難場所）正面玄関の藤棚前、（二次避難場所）本校3階廊下
学習のねらい	○大規模震災避難訓練を実施し、防災に対する備えと心構えを確実なものにする。
主 催	学校主催（地震・津波）
参加団体	横浜ゴム(株)
参加人数	自校生徒60名・教職員80名、横浜ゴム(株)15名
事前準備	○横浜ゴム(株)職員と事前打ち合わせ（実施2週間前） （内容）救急車両移動路の確保／不明者の捜索／負傷者の担架搬送 車椅子の生徒搬送／非常時協定事項の確認など／当日依頼する 内容について ○給食チームとの調整 （内容）給食費での非常食購入／乾燥材等の飲食不可物確認／PTAの 要望に応えた温かいメニューの提供／提供する食品と食器の組 み合わせ／残飯処理方法
実施内容	（1）津波避難 ○1次避難場所から高所へ移動した。 ○打ち合わせ内容に沿って本部からの指示で、本校職員と横浜ゴム （株）職員が連携して活動した。 （2）講話 津波防災の日についての由来と、本校非常備蓄品について （3）非常食喫食訓練 生徒職員全体で学校で保管してあるものと同じ非常食の調理、喫 食を行った。
参加者 の主な声	【生徒】 ○アルファ米を初めて食べたが美味しかった。 ○食べたものと同じものが保管してあると知って安心した。 【教員】 ○教員だけでは対応しきれないところに支援があってよかった。
工夫した点	○備蓄食料品の消費期限切れが間近な食品を献立に取り入れた。 ○横浜ゴム(株)職員が援助しやすいように、援助が必要な生徒の動線を 2か所ある階段の一方に寄せた。
成 果	○非常食調理法の確認ができた。 ○従来の備蓄品では対応できない幼児児童生徒の確認をした。 ○隣接している横浜ゴム(株)職員との連携では、実際に援助が必要な場合 の連絡方法、本校防災本部からの指示伝達システムの不備を確認できた。

<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○津波避難時の本校校舎避難の是非 <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎耐震工事が完了していないため、大規模な地震に耐えうるかわからないため。</li> </ul> </li> <li>○横浜ゴム(株)職員への指示伝達方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時避難場所から二次避難場所への移動の際、救護救出班にすべての人員が行ってしまい、車いす搬送に人手が足りなくなった。よりスムーズな支援が実現するよう打ち合わせと本部の指示を工夫する。</li> </ul> </li> <li>○援助依頼の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大声で周囲に向けて援助依頼を行うことができていない。</li> </ul> </li> </ul>
<p>今後の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○津波対応訓練については、本校校舎倒壊の可能性を考え、横浜ゴム(株)の敷地建造物に避難する訓練を検討、調整していく予定</li> </ul>

## 事例 19 みどり養護学校

名 称	防災交流フェスタ
日時・場所	平成27年10月3日（土）9時45分～11時45分 体育館・音楽室・生徒玄関
学習のねらい	①「防災」 : 親子で避難所体験をしてみよう ②「交流」 : 地域とつながる顔の見える関係づくり ③「フェスタ」 : みんなで楽しみながら防災意識を高めよう
主 催	学校主催（地震）
参加団体	東鴨居中学校、東本郷小学校地域防災拠点運営委員会、東本郷連合自治会、日本防災士会横浜支部、みどり養護学校PTA、緑消防署鴨居出張所、セーフティーネットプロジェクト横浜、社会福祉法人かたるべ会、NPO法人ごぼうハウス、社会福祉法人同愛会ぶなの森
参加人数	計219名 自校生徒・保護者42名・教職員50名、東鴨居中学校61名、東本郷小学校5名、協力団体7名、地域9名、事業所12名、その他33名
事前準備	○企画案作成（6月） ○協力依頼、参加依頼（①6月・②8月） ○ちらし、ポスターでの広報活動（9月）
実施内容	<p>○昨年に引き続き、近隣小中学校や住民の方との交流を図り、地震を想定した「防災交流フェスタ」を行った。近隣の小中学校に参加、交流を呼びかけた結果、中学校からの参加が増加した。</p> <p>(1) 避難所設営訓練・生活体験 スチレンボードを使用したパーティション居住スペースの作成</p> <p>(2) 代用トイレ設営体験 ペット用トイレシートや猫砂などを活用した代用トイレの作成</p> <p>(3) 災害非常食体験（アルファ米、乾パンなどの試食）</p> <p>(4) 初期消火体験（緑消防署員の指導のもと水消火器の体験）</p> <p>(5) 展示コーナーの設置 「障害者と災害」、「避難所の実際」、「近隣各区の防災情報」、「みどり養護学校の防災対策」、「避難訓練の様子」のパネル展示</p> <p>(6) PTA出前講座（「知的障害や自閉症のある人への支援」）</p> <p>(7) 福祉事業所による物品販売</p> <p>(8) 東鴨居中学校吹奏楽部による演奏会</p>
	 
	<p style="text-align: center;">避難所設営・生活体験</p> <p style="text-align: center;">初期消火体験</p>

参加者の主な声	<p>【生徒・教員・保護者・地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いつも新しい情報を知ることができるのでよい。</li> <li>○防災だけに特化せず楽しめた。</li> <li>○礼儀正しい中学生の演奏がさすがしく、楽しむことができた。</li> <li>○簡易トイレ（代用トイレ）の方法が学べてよかった。</li> <li>○生徒本人は想像がしにくいので、いろいろ体験ができてよかった。</li> </ul>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域とのつながりを重視して中学校吹奏楽部の演奏を企画した。</li> <li>○フェスタの中で教職員の災害時の実践力を高める活動を取り入れた。（非常食、代用トイレ、発電機の運用）</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域からの参加者が増え、「学校理解」「障害理解」など交流の目的は達成できた。</li> <li>○障害がある人もない人も楽しみながら防災について考える機会となった。</li> <li>○「交流」「学ぶ」以外に教職員の防災に対する実践力が高まった。</li> <li>○実施した内容を防災ハンドブックに反映することができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○9月、10月は地域で防災行事または運動会など行われるため、期日の設定が難しい。（県や市の防災展示ができない）</li> <li>○「防災学習」の質の向上及び確保が必要である。</li> <li>○本校の児童生徒の参加が増える方策が必要である。</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域との関わりが増え交流の部分は充実してきたので、実際の災害状況に対応できるように質の高い防災交流フェスタを実施したい。</li> </ul>

## 事例 20 武山養護学校

名 称	地域・学校連携防災デー
日時・場所	平成27年6月26日（金）9時30分～11時 本校及び武山中学校
学習のねらい	○大規模地震の発生から、安全確保、一時避難、震災避難所への避難と一連の動きが安全かつスムーズに行える。 ○地域・学校連携防災デーに参加することにより、周辺地域との連携を深める。
主 催	地域主催（地震） （横須賀市立武山中学校主催）
参加団体	武山中学校、武区内会、南消防署西分署
参加人数	自校生徒161名・教職員110名、武山中学校200名、町内会長数名、南消防署西分署職員
事前準備	○武山中学校との調整（4月～5月） ○職員会議（5月）
実施内容	○本校が崩壊してしまった場合を想定し、近くの中学校に避難する訓練を行った。 （1）一時避難訓練 学校内において地震が発生、安全確保から本校前庭に一時避難、人員点呼 （2）広域避難所移動訓練 本校近隣にある広域避難所の横須賀市立武山中学校へ本校全児童生徒と職員の避難、徒歩5分程度 （3）消火訓練 水消火器を使った消火訓練、武山中学校と本校から代表で数名が参加 （4）消火活動実演 消防署職員による消火活動及び救助活動の実演
参加者の主な声	○児童生徒が梯子消防車による消火活動によく注目していた。 ○消火訓練に参加した高等部生徒にとってよい体験になった。
工夫した点	○消火活動に本校からも数名参加した。 ○小学部の体力面等を考慮して、消火活動実演後、学校へ戻った。
成 果	○全校一斉での避難、移動体制が確認できた。
課 題	○武山中学校の職員、地元自治会の住人と面識をもてる機会を設定する。
今後の展開	○児童生徒が災害時の避難に関して意識できるよう、地震発生から避難所移動までの流れを検討するとともに、来年度の訓練参加に向けて地域との連携を深められるよう意見交換を行う。

■ D I G ■

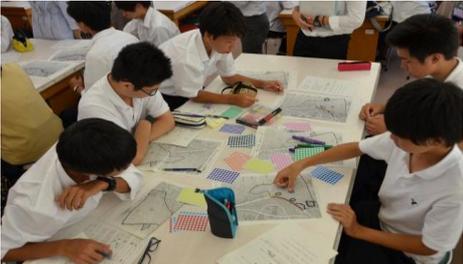
(災害図上訓練)

## 事例 1 旭高等学校

名 称	授業を利用したD I G
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の地形の特徴と災害の関係を「ハザードマップ」を読図することと活用することを通して理解する。</li> <li>○また、想定される被害や避難経路などについて具体的に考え、防災意識を高める。</li> </ul>
日時・場所	平成27年6月22日（月）～7月13日（月） ホームルーム（HR）教室
実施教科等 （実施時間）	（教科）地歴公民、（科目）地理A・地理B （実施時間 50分）
参加人数	生徒147名 全4クラス （1年3クラス（118名）、3年1クラス（29名））
ファシリテーター	自校の教員（社会科）
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旭区役所総務課庶務係で3種類の資料を10冊ずつ入手               <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭区「区民生活・防災マップ」</li> <li>・旭区「浸水ハザードマップ」</li> <li>・旭区「土砂災害ハザードマップ」</li> </ul> </li> <li>○ワークシートの作成</li> <li>○1クラス（40名）を4名のグループに振り分け</li> <li>○グループ発表時に使用する計時用タイマーを教室に持参</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○HR教室で、1年必修「地理A」3クラスと3年必修選択「地理B」1クラスの授業で、横浜市旭区役所から入手した3種類の資料を各グループに1冊ずつ配付し、資料を利用したグループ学習（アクティブラーニング）を行った。（地理授業の単元「世界の大地形と人々の生活」・「日本の自然環境と防災」で取り扱った）</li> </ul>
参加者の 主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○旭高校敷地内に土砂災害警戒区域に指定されている場所があったので驚いた。</li> <li>○防災について家族と話す機会になった。</li> <li>○いざという時に慌てないように日頃から準備する。</li> <li>○地図の読み方をもっと知りたい。</li> <li>○自分の家の防災地図を見たい。</li> </ul>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートの設問を解くために、生徒には上記の資料を活用し、グループで話し合いながら作業を進めさせた。</li> <li>○学校を中心にして様々な災害に対して、その実態と対策を考えさせるとともに、学校敷地内には土砂災害警戒区域があること、周辺には内水（下水などの氾濫）・洪水の浸水想定区域が多く存在していることを確認した。</li> <li>○学校から自宅までの徒歩での帰宅ルートを想定するときこれらを避けなければ安全に帰宅できないことなどを理解させた。</li> </ul>

成 果	<p>○生徒は「防災マップ」や「ハザードマップ」の読み方を知ることによって、身近な場所が土砂災害や洪水の被害に見舞われることを理解した。</p> <p>○普段の景色が豹変することを想像できたことは成果の一つである。</p> <p>○また、後半の時間では様々な災害に対して、日頃から気を付けておくことは「何か？」をグループで討議し、まとめを代表者が発表した言語活動により他者の意見を聞き自分の考えを発表するなど、様々な能力が身についたと考える。</p>
課 題	<p>○グループ学習（アクティブラーニング）を意識したので、提供した資料の説明はしなかったが、資料の活用について、凡例の見方などで手間取ったグループもあり、読図の知識（等高線や地図記号の意味）を事前に学習する必要があった。</p> <p>○また、直線距離の測定をさせたが、実際に歩くことも重要と考える。</p>
今後の展開	<p>○地図で確認した地域の避難場所に避難経路にしたがって実際に歩いてみる、地域の防災訓練にボランティア参加する、防災マップの作成などの発展的活動につなげる。</p>

## 事例2 氷取沢高等学校

名 称	街歩き防災マップ作成
学習のねらい	○氷取沢高等学校周辺の特徴を知り、大災害が起きた時に地域のために何ができるかを、災害図上訓練（DIG）研修を通して生徒に考えさせる。
日時・場所	①平成27年7月13日（月）13時～15時 街歩き（学校周辺） ②平成27年7月15日（水）13時～15時 防災マップ作り（被服室）
実施教科等（実施時間）	放課後の委員会活動 （実施時間 各回120分）
参加人数	生徒30名（防災委員会 各クラスから2名程度）
ファシリテーター	自校の教員（防災担当）
事前準備	○【打合せ】磯子消防署に協力してもらい効果的な展開の指導・助言をしてもらった。 ○【準備】拡大地図（大判プリンタを使用し作成）、模造紙、付箋、カラーシール、ペン、3.11関連DVD等
実施内容	<p>○2日に分けて次のようなことを行った。</p> <p>①1日目は、約30名の生徒を5グループに分け、氷取沢高校周辺を5つのエリアに分割し、それぞれの担当エリアを決めて実際に街歩きを行った。その際災害時に役立つ物、障害となりうる物等を自分たちで考えて見て回り、配布した地図に書き込み、2日目の資料になるように繋げていった。</p> <p>②2日目は、全員で1つの部屋に集合し、大判プリンタで印刷した1枚の大きな地図にグループごとの担当エリアのポイントを書きこんでいき本校周辺の防災マップを完成させた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>1日目 街歩き</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2日目 防災マップ作り</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <p>○始めに東日本大震災の映像を見ることによって、津波以外にどんな事態が起こりうるか、イメージを持った上で取り組むことができた。</p> <p>○災害時を甘く見ていた。今回の研修で意識は大きく変わった。自分たちは地域の力になれるようにしないと強いと感じた。</p> <p>【来校者（他校の教員）】</p> <p>○震災の映像が効き、研修の導入として大きな存在となっていた。それによって生徒の意識も高まり、一生懸命取り組んでいた。</p> <p>○シンプルで手順もわかりやすい内容であり、自校に持ち帰って行ってみたい。</p>
工夫した点	○東日本大震災のDVDを用い、想像させるだけでなく視覚でも災害時の様子をイメージさせた。

成果	○大災害時にどんなことが起こるかを予想させ、その時に何ができるかを考えることによって、地域の力としての高校生のあり方を考える大きな機会にすることができた。
課題	<p>○今年初めて取り組んだ研修会であり、当初生徒の中には防災意識が低い生徒もたくさんいた。結果的に意欲的に取り組んでくれた生徒も多かったが、より生徒の防災意識を事前に高めるためにできそうなことを考えたい。(今回はそれを2日目の東日本大震災DVDで行った)</p> <p>○夏の暑い中での街歩きだったため、範囲や時間も限定された。放課後に2～3時間程度時間を割くとなると、午前授業の日が有力となり、歩きやすいシーズンに行くことが難しい。</p> <p>○災害時は予想だにしない事態が頻繁に起こる。もっと深い内容に踏み込むためにも、様々なものの見方、考え方を持たせたい。そのためにはグループ内でのコミュニケーション力が問われてくるので、事前のグループワーク等工夫が必要と感じた。</p>
今後の展開	○校内のファシリテータ（職員）を育成して、防災委員以外の生徒にも研修させる機会を設ける。

### 事例3 上矢部高等学校

名 称	全校で行う帰宅経路の検討・確認のためのD I G
学習のねらい	○同じ地域に住む生徒同士が協力して帰宅できるよう、お互いを知る機会とする。 ○状況によって臨機応変に対応できるよう、相互連絡、協調・協力が大切であることを周知する。
日時・場所	平成27年5月7日(木) 11時50分～12時40分 ホームルーム(HR)教室
実施教科等 (実施時間)	ロングホームルーム (実施時間 50分)
参加人数	生徒986名(1年8クラス317名、2年9クラス357名、3年9クラス312名)、教員60名
ファシリテーター	自校の教員(学校運営グループ)
事前準備	○年度当初「緊急連絡カード」を記入させる。 ○「緊急連絡カード」を利用して、学年を横断して居住地ごとに生徒をグループ分けする。
実施内容	○帰宅経路の検討・確認に「戸塚区防災区民マップ」を活用して、会場ごとにD I Gを実施し、生徒同士で帰宅経路の確認を行った。 ○なお、本校では、年度始めに「緊急連絡カード」の住所や震災時避難場所の確認と訂正を行わせている。
参加者の 主な声	【生徒】 ○学年を越えて集まることで、近所に住む生徒同士の顔が改めてわかってよかった。
工夫した点	○「戸塚区防災区民マップ」を活用
成 果	○居住地域別に全学年の生徒を集合させたことで、学年を越えた連帯感を持たせることができた。特に3年生にはリーダーとしての配慮を自覚させるよい機会となった。
課 題	○通学範囲が広範囲に渡るため、帰宅経路を共にする生徒がいない生徒への対応をどうするか。 ○また、帰宅経路における地図上では判断しにくい危険箇所をどう把握させるか。
今後の展開	○効果的な職員研修の検討(現在3年ごとに職員事前研修・地震津波防災教育DVD視聴を実施)



#### 事例4 横須賀明光高等学校

名 称	教員を対象としたDIG
学習のねらい	○DIGを体験する。
日時・場所	平成27年7月1日（水）13時30分～15時 会議室
実施教科等 （実施時間）	放課後の教員対象防災研修 （実施時間 50分）
参加人数	教員37名（防災委員会）
ファシリテーター	自校の教員（防災担当）
事前準備	○1万分の1の地図を利用して、継張りして「居住地域別下校ルート地図」を9枚作成
実施内容	○本校で毎年夏季休業明けに行っている防災訓練（生徒居住地別グループ点呼）に向けて、担当教員ごとに11グループ地域に分かれ、集団下校を引率するという想定で行った。 ○福祉科のある学校として、老人ホーム・保育園・病院など支援する可能性のある施設を細分類しマークした。
参加者の 主な声	【教員】 ○事後アンケート回収24人（うちDIG初めて23人、4回目1人）中、「とても有益：14人、まあまあ有益：10人」という成果を得た。 ○近隣に意外にも多くの危険物貯蔵施設が点在していることに気付いた。 ○新しい発見があった。 ○地域を知ることができた。 ○臨機応変の判断力が必要と感じた。 ○おもしろくて本気で取り組んでしまった。 等、事後アンケートのコメントは、すべて肯定的なものだった。
工夫した点	○定期試験日の午後ということもあり短時間で行うために、手順のプリントを配布した。ただし、進行スピードを制御するために、プリント内の使用する色の指示は空欄とし、進行状況を見ながら、その場で指示した。 ○コピーした地図に直接マーカーで書き込んだ。 ○全員が主体的に取り組めるように、1グループ3～4名の少人数で行った。 ○今後の訓練に活かすため、参加した教員にアンケートを行った。

成 果	<p>○保護者が迎えに来るまで学校に留めるという、県の指針を教員に周知するよい機会になった。</p> <p>○保護者が迎えに来るまで学校に留める原則がある一方で、「実際はどんな対応をとるか分からないので、居住地域グループ別点呼の訓練が必要」と答えた教員が9名（訓練不要で名簿は必要：4名、名簿も不要：0名）いたことから、非常時の臨機応変の対応の必要性を理解してくれている教員が多い。</p>
課 題	<p>○生徒を学校に留めおいた時の食糧、トイレ、冬場の暖房</p> <p>○非常時の保護者との連絡・通信手段</p>
今後の展開	<p>○保健委員会やJRC（青少年赤十字）部など生徒によるDIGの実践</p>

## 事例5 茅ヶ崎西浜高等学校

名 称	学年（1年10クラス）で行うDIG
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海に近い本校の立地を踏まえ、地図上の作業を通じて周辺地域の様々な理解（地形・道路・施設・標高等）をすすめ、防災に対する意識の向上を目指す。</li> <li>○活動を通じて得られた体験やアドバイス、意見交換から様々な発見を大切にしながら、災害に対するより深い理解をすすめる。</li> </ul>
日時・場所	平成27年9月16日、9月30日、10月28日、11月4日、11月11日、11月18日、11月25日、1月13日、1月20日、1月27日（計10回） ※上記水曜日 14:25～15:15〔場所：2階会議室〕
実施教科等（実施時間）	6校時1年 総合学習 （実施時間 50分）
参加人数	生徒397名（10クラス）
ファシリテーター	自校の教員（防災担当者およびクラス担任） ※指導：ひらつか防災まちづくりの会
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5～8月、指導団体との打ち合わせ及び資料の作成</li> <li>○5～9月、消耗品購入と各回の連絡確認、会場準備等</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合学習後期プログラムの一つとしてクラスごとに実施した。</li> <li>○1クラス5～6名ずつ7グループに分けて作業等をすすめた。</li> <li>○原則スタッフ4名、教員4名（担任を含む）で指導した。</li> <li>○本校教諭が指導団体のアドバイスを受けながら全体の進行を行った。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校周辺の状況を知ることができる良い機会になった。</li> <li>○津波による災害を具体的にイメージすることができたことと、そのことを多くの人と話し合えたことはとても有意義だった。</li> </ul>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入と振り返りについて学習シートを使用した。</li> <li>○過去の実施状況を見直し、話し合いや発表の時間をできるだけ確保するような進行に努めた。</li> </ul>
成 果	○学校の周辺の状況を津波被害等の面から考えることで、災害時の具体的なイメージや新たな気づきをもたらしている。
課 題	○より多くの生徒に効率よく実施するため、50分間で実施しているが、話し合いや発表の時間を考えると十分な時間があるとはいえない。
今後の展開	○街歩きの活動や待機訓練など、他の防災教育とつながるような形態を目指していきたい。



## 事例6 逗葉高等学校

名 称	全校で行うD I G
学習のねらい	○グループ活動を通じ、学校周辺の危険箇所や災害時に有用な施設などを地図から探し出すことにより災害時の活動に役立つ知識を共有する。
日時・場所	平成27年9月1日（火）9時50分～10時40分 ホームルーム（HR）教室
実施教科等 （実施時間）	ロングホームルーム（実施時間 50分）
参加人数	生徒828名（1年8クラス278名、2年7クラス278名、3年8クラス272名）、教員44名
ファシリテーター	自校の教員（防災担当）
事前準備	○教職員の事前研修（2回） ○【準備】油性マジック（三色）、90リットルゴミ袋、防災マップ、5色シール
実施内容	○逗子市のハザードマップを活用し、学校周辺の馴染みのある地域の地図により実施した。 
参加者の 主な声	【生徒】 ○私たちが生活する地域の危険な箇所や避難経路が理解できた。
工夫した点	○全校生徒が一斉にD I Gに参加するには、130枚を超える沢山の地図が必要になる。張り合わせた地図を作成するのは困難なので、逗子市の防災課よりハザードマップを頂けるよう働きかけた。 ○また、学校周辺の馴染みのある地域の地図を選択した。90リットルゴミ袋に地図を挟み込むことにより、準備の手間を省くことができる。ゴミ袋として再利用することもできる。
成 果	○学路周辺の危険な箇所や、自分たちの街の災害に強い点や弱い点を理解させることができた。グループで取り組むことにより、生徒が楽しんで、防災についての理解を深めることができた。 ○また、職員研修を重ねることにより、本番にむけての問題点が見つかった。

課 題	○近隣の逗子市のハザードマップは大きさ、縮尺とも学習しやすいものであったが、次年度以降のことを考えると、他の行政では適切なものが見つからない。
今後の展開	○職員が参加しやすい研修日程を考察する。 ○次回に備えて、逗子以外に本校生徒が多く往来し、学習しやすい地域を選考する。

## 事例7 相模原養護学校

名 称	分教室生徒と行うDIG
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○DIGの授業を通して、防災に対する意識を高める。</li> <li>○地域の防災設備や避難場所の所在を知る。</li> <li>○今までの防災学習を実際の生活場面で考え、自分たちでできることを考える。</li> </ul>
日時・場所	平成27年9月16日（水）10時～11時45分 物理室
実施教科等 （実施時間）	総合的学習の時間 （実施時間 90分（休憩15分））
参加人数	分教室全学年44名、教員15名
ファシリテーター	外部講師 （防災アドバイザー 佐藤 榮一氏）
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○修学旅行で神戸市にある「人と防災未来センター」を訪れ、防災に関する意識を高めた。</li> <li>○1学期に全学年を対象にして、厚木の防災総合センターへ見学・体験に行ったり、また、近隣の消防署員を招いての講演を持つことで、防災に対する意識付けを行った。</li> </ul>
実施内容	○教員対象の研修で行った手順に基づいて、佐藤講師のリードのもと、DIGを行った。
参加者の 主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の近くの避難場所が分かった。</li> <li>○危険箇所が分かった。</li> <li>○普段気にしていなかったが、防災に関する地図の見方がわかった。</li> </ul>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3.11のビデオを見た後、佐藤氏のリードで内容を深めた。</li> <li>○教員が各班に入ることで、生徒の気づきを生かし、学習が深まるようにした。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○DIGを通じて、生徒自身が、通学路の途中にも危険箇所がいくつもあるのが分かった。</li> <li>○また、居住地の周辺等の危険箇所にも興味を持つことができた。</li> </ul>
課 題	○今回は、地図を用いての授業であったが、実際に校外へ出て危険箇所について知る機会を持つことが必要である。
今後の展開	○実際の場面での活動及び、結果についての考察を深める時間を設定

## 事例8 金沢養護学校

名 称	教員で行うDIG
学習のねらい	○防災教育の一環として普及が進んでいるDIGの実際を知り、全教員対象の研修へのイメージを持つこと。また、実施に向けての課題を確認すること。
日時・場所	平成27年8月26日（水）10時～12時 会議室
実施教科等 （実施時間）	夏季休業中の教員対象防災研修 （実施時間 120分）
参加人数	教員13名、金沢消防署から1名オブザーバー参加
ファシリテーター	外部講師 （（公社）SL災害ボランティアネットワーク）
事前準備	○講師より送られた地域の地図の拡大、貼り合わせ ○講師より指示されたマーカー、シール等の文具の用意
実施内容	○DIGがどういうものかを学ぶために、管理職と各指導グループ、校務グループのリーダーそして防災を担当するグループのメンバーを対象に実施した。
参加者の 主な声	【教員】 ○みんなで話し合うことで今まで知らなかった危険箇所や地域の状況について知ることができた。さらに注意深く地域のことを知る必要性を感じる。
工夫した点	○あえて予備知識を事前に提供することなくファシリテーターのリードのもとに新鮮な気持ちで学校周辺の地域の状況と向き合えるようにした。
成 果	○DIGを通じて、実は地域のことをよくは理解していないことが分かった。 ○大震災の際、近くの高台への避難経路が土砂災害警戒区域であったり、具体的な情報に基づいて地域を見つめ直す必要性を実感した。
課 題	○今回は一部の教員で実施したが、どのようにしたらこの経験をすべての教員が共有できるのか、教員の数が多いので工夫が必要となる。 ○また、授業で生徒が取り組む場合、複合的な力が求められるため簡略化した教材を用意しなければならないし、自分を守るための危機回避能力を育てるためには、図上で知ったことを実際に歩いて自分達目で確認する必要があると思われる。
今後の展開	○全体での研修に向けて、確認すべき項目（一度に参加可能な人数、必要回数等）を整理、検討する。 ○必要に応じて消防署に相談する。

**地域と連携した防災訓練等事例集【平成27年度版】**

平成27年12月

神奈川県教育委員会  
教育局総務室防災・広報グループ

(電話) 045-210-8078